

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **09194323 A**(43) Date of publication of application: **29 . 07 . 97**

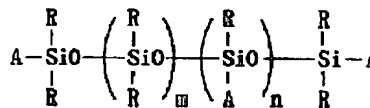
(51) Int. Cl.

A61K 7/00**A61K 7/02****A61K 7/42****A61K 7/48**(21) Application number: **08021872**(22) Date of filing: **12 . 01 . 96**(71) Applicant: **SHISEIDO CO LTD**(72) Inventor: **HINENO TERUHIKO
NANBA TOMIYUKI
UEHARA KEIICHI**(54) **GEL-LIKE COSMETIC**

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prepare a gel-like cosmetic with light spreadability, free from sticky feeling when applied, excellent in refreshing feeling after applied, and good in makeup sustainability by containing each specific silicone compound and hydrophobic powder.

SOLUTION: This gel-like cosmetic comprises (A) 20-80wt.% of a silicone oil, (B) 2-30wt.% of a polyether-modified silicone of the formula [A is methyl, phenyl or $C_3H_6O(C_2H_4O)_a(C_3H_6O)_bR'$ (R' is H, an acyl or a 1-4C alkyl; (a) is 5-50; (b) is 5-50); R is methyl or phenyl; (m) is 50-1000; (n) is 1-40], (C) 0.2-80wt.% of water, and (D) 1-60wt.% of hydrophobic powder. This cosmetic can be prepared into facial products such as hand cream and facial cream, makeup products such as foundation, eyeshadow and lipsticks, hair-setting products such as hair gel and hair cream, anti-suntan products such as sunscreen cream, and gel-like products such as antiperspiration cream.



COPYRIGHT: (C)1997,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-194323

(43)公開日 平成9年(1997)7月29日

(51)Int.Cl. ⁸	識別記号	弁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K	7/00		A 6 1 K 7/00	J
				R
	7/02		7/02	Z
	7/42		7/42	
	7/48		7/48	
審査請求 未請求 請求項の数 5 F D (全 10 頁)				

(21)出願番号	特願平8-21872	(71)出願人	000001959 株式会社資生堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号
(22)出願日	平成8年(1996)1月12日	(72)発明者	日根野 照彦 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株 式会社資生堂第一リサーチセンター内
		(72)発明者	難波 富幸 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株 式会社資生堂第一リサーチセンター内
		(72)発明者	植原 計一 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株 式会社資生堂第一リサーチセンター内
		(74)代理人	弁理士 館野 千恵子

(54) 【発明の名称】 ゲル状化粧料

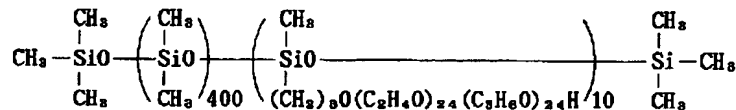
(57) 【要約】

【課題】 のびが軽く、塗布時のべたつき感がなく、かつ塗布後のさっぱりさが優れ、化粧持ちのよいゲル状化粧料を提供する。

【解決手段】 (A) シリコン油の一種または二種以

上と、(B) 下記式で示されるようなポリエーテル変性シリコーンの一種または二種以上と、(C) 水と、(D) 疎水性粉末の一種または二種以上とを含有させる。

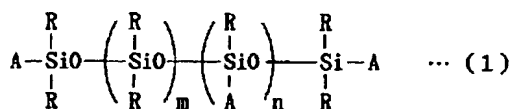
【化1】



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 (A) シリコン油の一種または二種以上と、(B) 下記一般式 (1) で示されるポリエーテル変性シリコンの一種または二種以上と、(C) 水と、(D) 疎水性粉末の一種または二種以上とを含有することを特徴とするゲル状化粧料。

【化 1】



〔式中、Aはメチル基、フェニル基および一般式： $-\text{C}_3\text{H}_6\text{O}(\text{C}_2\text{H}_4\text{O})_a(\text{C}_3\text{H}_6\text{O})_b\text{R}'$ (式中、R' は水素原子、アシル基および炭素数 1~4 のアルキル基からなる群から選択される基であり、また a は 5~50 の整数であり、b は 5~50 の整数である。) で示されるポリオキシアルキレン基からなる群から選択される基であり、R はメチル基またはフェニル基であり、m は 50~1000 の整数であり、n は 1~40 の整数である。ただし分子中に少なくとも 1 個はポリオキシアルキレン基を有する。〕

【請求項 2】 シリコン油を 20.0~80.0 重量%と、ポリエーテル変性シリコンを 2.0~30.0 重量%と、水を 0.2~80.0 重量%と、疎水性粉末を 1.0~60.0 重量%とを含有する請求項 1 記載のゲル状化粧料。

【請求項 3】 疎水性粉末が球状粉末である請求項 1 または 2 記載のゲル状化粧料。

【請求項 4】 疎水性粉末がシリコン樹脂粉末である請求項 1~3 のいずれかに記載のゲル状化粧料。

【請求項 5】 疎水性粉末がシリコンゴム粉末である請求項 1~3 のいずれかに記載のゲル状化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はゲル状化粧料に関し、さらに詳しくは、のびが軽く、塗布時のべたつき感がなく、かつ塗布後のさっぱりさが優れ、化粧持ちのよいゲル状化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】 シリコンオイルは、のびが軽くさっぱりとした感触を有することから、メーキャップ化粧料、頭髮化粧料をはじめとするさまざまな化粧料および医薬部外品に配合されている。特に、ゲル状化粧料としては、液状ファンデーション、サンスクリーンジェル、モイスチャークリーム、ヘアジェル、制汗クリーム等に使用されている。シリコン油を含有するゲル状組成物としては、シリコンオイル 100 重量部にデキストリン脂肪酸エステル 2~30 重量部を含有するゲル状組成物 (特公平 3-6179 号公報)、オルガノハイドロジェンポリシロキサン架橋

重合物と低粘度シリコン油からなるゲル状組成物およびこれを含有する化粧料 (特開昭 63-152308 号公報) 等が提案されている。ところが、これら従来のシリコン油含有ゲル状化粧料は経時での安定性が悪く、シリコン油が分離するという問題があった。このような問題を解決するために、シリコン油にポリオキシアルキレン変性オルガノポリシロキサン的一种又は二種以上、有機変性モンモリロナイト系粘土鉱物ならびに水を配合してなるゲル組成物 (特公平 4-19269 号公報) が提案されている。ところが、このゲル組成物は皮膚に塗布後のさっぱりさや化粧持ちに欠けるという問題点があった。さらに近年、シリコン油に特定のポリエーテル変性シリコンを配合したゲル状組成物が提案されている (特開平 5-311076 号公報)。このゲル状組成物は、経時安定性は良いが、塗布時のべたつき感や化粧持ちの点では未だ満足できるものではなかった。

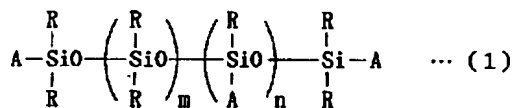
【0003】

【課題を解決するための手段】 本発明者らは上記事情に鑑み、のびが軽く、塗布時のべたつき感がなく、かつ塗布後のさっぱりさ、および化粧持ちにも優れたシリコン油含有ゲル状化粧料を得べく鋭意研究を重ねた結果、特定のシリコン化合物および特定の疎水性粉末を配合することによりこの課題を解決し得ることを見出し、本発明を完成するに至った。なお、本願出願人は先にシリコン油とポリエーテル変性シリコンと疎水化処理粉末とを配合したゲル状化粧料を開発しているが (特願平 6-32833 号)、本発明は前記技術をさらに改良したものである。

【0004】 すなわち本発明は、(A) シリコン油の一種または二種以上と、(B) 下記一般式 (1) で示されるポリエーテル変性シリコンの一種または二種以上と、(C) 水と、(D) 疎水性粉末の一種または二種以上とを含有することを特徴とするゲル状化粧料である。

【0005】

【化 2】



【0006】 〔式中、Aはメチル基、フェニル基および一般式： $-\text{C}_3\text{H}_6\text{O}(\text{C}_2\text{H}_4\text{O})_a(\text{C}_3\text{H}_6\text{O})_b\text{R}'$ (式中、R' は水素原子、アシル基および炭素数 1~4 のアルキル基からなる群から選択される基であり、また a は 5~50 の整数であり、b は 5~50 の整数である。) で示されるポリオキシアルキレン基からなる群から選択される基であり、R はメチル基またはフェニル基であり、m は 50~1000 の整数であり、n は 1~40 の整数である。ただし分子中に少なくとも 1 個はポリオキシアルキレン基を有する。〕

【0007】 本発明に用いられるシリコン油は、特に

【0007】 本発明に用いられるシリコン油は、特に

限定されるものではないが、具体的には、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、ジメチルポリシロキサン・メチルフェニルポリシロキサン共重合体等の低粘度から高粘度までのジオルガノポリシロキサン；オクタメチルシクロテトラシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、テトラメチルテトラフェニルテトラシクロシロキサン等の環状ポリシロキサン；高重合度のガム状ジメチルポリシロキサン、ガム状のジメチルシロキサン・メチルフェニルシロキサン共重合体、ガム状ジメチルポリシロキサンの環状シロキサン溶液；トリメチルシロキシケイ酸等；トリメチルシロキシケイ酸の環状シロキサン溶液等が例示され、さらに炭素原子数6～50のアルキル基を有するジオルガノポリシロキサン、アミノ変性シリコーン、高級アルコキシ変性シリコーン、高級脂肪酸変性シリコーン、アルキル変性シリコーン、フッ素変性シリコーン等が例示される。これらの中では、環状ポリシロキサン、特に環状のジメチルポリシロキサンを用いた場合に、ゲル状化粧料の安定性が高い。

【0008】本発明のゲル状化粧料において、シリコーン油の配合量は特に限定されないが、20.0～80.0重量%が好ましい。

【0009】また、本発明に用いられるポリエーテル変性シリコーンは、前記一般式(1)で示されるポリオキシアルキレン基を有するオルガノポリシロキサングラフト重合体である。R'のアシル基として具体的には、ホルミル基、アセチル基、プロピオニル基、ブチル基、アクリロイル基、ベンゾイル基、トルオイル基等が例示され、炭素数1～4のアルキル基として具体的には、メチル基、エチル基、i-プロピル基、n-プロピル基、t-ブチル基、n-ブチル基等が例示される。

【0010】なお、ポリオキシアルキレン基において、aまたはbが5未満である場合には、ポリエーテル変性シリコーンが十分な増粘効果を示さなくなり、またaまたはbが50を超える場合には、得られたゲル状化粧料がべとつき感を有するようになる。

【0011】ポリオキシアルキレン基の含有量は特に限定されないが、ポリオキシアルキレン基の含有量が20～70重量%（ただし、20重量%は含まない。）であることが望ましい。これは、ポリオキシアルキレン基の含有量が20重量%以下の場合には、ポリエーテル変性シリコーンの増粘効果が著しく低下するためであり、また70重量%を超える場合には、シリコーン油との相溶性が低下するためである。

【0012】また、mは50～1000の整数であり、nは1～40の整数であり、好ましくは、mは200～600、nは5～20である。これは、mが50未満であり、nが1未満である場合には、増粘効果が不十分であり、またmが1000を超え、かつnが40を超える場合には、得られたゲル状化粧料がべとつき感を有する

ようになるからである。

【0013】本発明に用いられるポリエーテル変性シリコーンの分子量は特に限定されず、またその25℃における粘度は特に限定されないが、特に安定性のあるゲルを形成し、さらさら感を有するゲル状化粧料とするためには、本発明に用いられるポリエーテル変性シリコーンは、オクタメチルテトラシロキサン50.0重量%溶液とした時の粘度が1000～100000cstの範囲となるようなものであることが好ましい。また分子量は、安定性、使用性の面から50000以上、好ましくは50000～80000の範囲が好ましい。

【0014】本発明に用いられるポリエーテル変性シリコーンの配合量は2.0～30.0重量%であり、好ましくは、5.0～15.0重量%の範囲である。これは、本発明のゲル状化粧料において、ポリエーテル変性シリコーンの配合量が2.0重量%未満であると、安定なゲル状化粧料を得ることができないためであり、また30.0重量%を超えるとゲル状化粧料がべとつき感を有するようになるためである。

【0015】本発明に用いられる水の配合量は化粧料全量中、0.2～80.0重量%の範囲であることが好ましく、最も好ましくは2.0～6.0重量%の範囲である。これは、水の配合量が0.2重量%未満であると安定なゲル状化粧料が得られず、また80.0重量%を超えると、ゲル状化粧料から水が分離し、安定なゲル状化粧料が得られないためである。

【0016】本発明に用いられる疎水性粉末は特に限定されるものではないが、ポリアミド樹脂粉末（ナイロン粉末）、ポリエチレン粉末、ポリメタクリル酸メチル粉末、ポリスチレン粉末、スチレンとアクリル酸の共重合体樹脂粉末、ベンゾグアナミン樹脂粉末、ポリ4フッ化エチレン粉末、セルロース粉末等の有機樹脂粉末、ポリメチルシルセスキオキサン末等のシリコーン樹脂粉末、ポリジメチルシロキサン架橋弾性体等のシリコーンゴム粉末等が挙げられる。このうち特に、シリコーン樹脂粉末およびシリコーンゴム粉末が好ましい。本発明においては疎水性以外の粉末も用いることができるが、その配合量は全粉末量の50重量%以下が好ましい。二酸化チタン、無水ケイ酸、マイカ、カオリン、セリサイト、タルクのような非疎水性粉末のみでは、良好な使用性のゲル状化粧料は得られない。

【0017】本発明における疎水性粉末の形状は特に限定されず、板状、塊状、鱗片状、球状等いかなる形状のものでも使用できるが、特に良好な使用性が得られることから球状のものが好ましい。

【0018】本発明に用いられる疎水性粉末の配合量は特に限定されるものではないが、本発明の化粧料全量中、1.0～60.0重量%が好ましく、さらに好ましくは10.0～50.0重量%である。また、本発明で用いられるポリエーテル変性シリコーン1重量部に対

し、疎水性粉末が3～8重量部のとき、べたつき改善効果が顕著である。

【0019】本発明のゲル状化粧品には上記した必須成分に加えて、必要により適宜、保湿剤、乳化剤、紫外線吸収剤、香料、酸化防止剤、防腐防黴剤、体質顔料、着色顔料等の色剤、pH調整剤等、通常化粧品に用いられる成分を発明の効果を損なわない範囲で配合することができる。

【0020】本発明のゲル状化粧品は、ハンドクリーム、フェーシャルクリーム、クレンジングクリーム等のフェーシャル製品、ファンデーション、アイシャドー、*

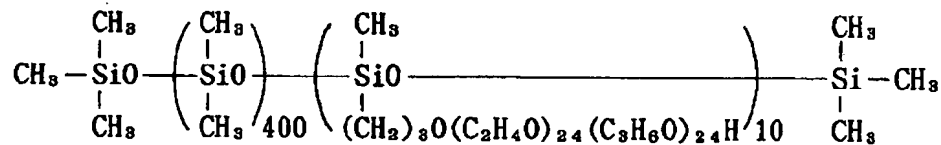
実施例1 粉末含有ゲル状化粧品

(1) デカメチルシクロペンタシロキサン	37.5 重量%
(2) ジメチルポリシロキサン (6CS)	2.0
(3) エタノール	7.5
(4) ポリエーテル変性シリコーン ^{*1)}	12.0
(5) ポリメチルシルセスキオキサン末	40.0
(6) イオン交換水	1.0
(7) パラベン	適量
(8) 酸化防止剤	適量
(9) 香料	適量

【0023】

【化3】

*1)



【0024】(以下の例においても同じである。)

※ル化させた。これに(5)を加え、ホモミキサーで混合分

(製法) (1)～(4)および(7)～(9)を室温で混合溶解した後、ホモミキサーで攪拌を続けながら(6)を添加し、ゲル

散後、脱気、充填し、粉末含有ゲル状化粧品を得た。

【0025】

比較例1 粉末含有ゲル状化粧品

(1) デカメチルシクロペンタシロキサン	37.5 重量%
(2) ジメチルポリシロキサン (6CS)	2.0
(3) エタノール	7.5
(4) ポリエーテル変性シリコーン ^{*1)}	12.0
(5) 二酸化チタン	40.0
(6) イオン交換水	1.0
(7) パラベン	適量
(8) 酸化防止剤	適量
(9) 香料	適量

(製法) 実施例1と同様にして比較例1の粉末含有ゲル状化粧品を得た。

★【0026】

比較例2 粉末含有ゲル状化合物

(1) デカメチルシクロペンタシロキサン	37.5 重量%
(2) ジメチルポリシロキサン (6CS)	2.0
(3) エタノール	7.5
(4) ポリエーテル変性シリコーン ^{*1)}	12.0
(5) 無水珪酸	40.0
(6) イオン交換水	1.0

(7) パラベン	適量
(8) 酸化防止剤	適量
(9) 香料	適量

(製法) 実施例1と同様にして比較例2の粉末含有ゲル
状化合物を得た。 * 【0027】

実施例2 粉末含有ゲル状化粧料

(1) デカメチルシクロペンタシロキサン	37.5 重量%
(2) ジメチルポリシロキサン (6CS)	2.0
(3) エタノール	7.5
(4) ポリエーテル変性シリコーン ¹⁾	12.0
(5) 真球状シリコーンゴム粉末	40.0
(6) イオン交換水	1.0
(7) パラベン	適量
(8) 酸化防止剤	適量
(9) 香料	適量

(製法) 実施例1と同様にして実施例2の粉末含有ゲル
状化粧料を得た。 【0028】

実施例3 粉末含有ゲル状化粧料

(1) デカメチルシクロペンタシロキサン	34.5 重量%
(2) ジメチルポリシロキサン (6CS)	7.0
(3) エタノール	7.5
(4) ポリエーテル変性シリコーン ¹⁾	10.0
(5) ポリメチルシルセスキオキサン末	40.0
(6) イオン交換水	1.0
(7) パラベン	適量
(8) 酸化防止剤	適量
(9) 香料	適量

(製法) 実施例1と同様にして実施例3の粉末含有ゲル
状化粧料を得た。 【0029】

実施例4 粉末含有ゲル状化粧料

(1) オクタメチルシクロテトラシロキサン	39.5 重量%
(2) ジメチルポリシロキサン (6CS)	2.0
(3) エタノール	7.5
(4) ポリエーテル変性シリコーン ¹⁾	5.0
(5) ポリメチルシルセスキオキサン末	45.0
(6) イオン交換水	1.0
(7) パラベン	適量
(8) 酸化防止剤	適量
(9) 香料	適量

(製法) 実施例1と同様にして実施例4の粉末含有ゲル
状化粧料を得た。 【0030】

実施例5 粉末含有ゲル状化粧料

(1) オクタメチルシクロテトラシロキサン	22.5 重量%
(2) ジメチルポリシロキサン (6CS)	2.0
(3) エタノール	7.5
(4) ポリエーテル変性シリコーン ¹⁾	12.0
(5) ポリメチルシルセスキオキサン末	55.0
(6) イオン交換水	1.0
(7) パラベン	適量
(8) 酸化防止剤	適量

(9) 香料

適量

(製法) 実施例1と同様にして実施例5の粉末含有ゲル
状化粧料を得た。 * 【0031】

実施例6 粉末含有ゲル状化粧料

(1) オクタメチルシクロテトラシロキサン	77.5 重量%
(2) ジメチルポリシロキサン (6CS)	2.0
(3) エタノール	7.5
(4) ポリエーテル変性シリコーン ¹⁾	3.0
(5) ポリメチルシルセスキオキサン末	9.0
(6) イオン交換水	1.0
(7) パラベン	適量
(8) 酸化防止剤	適量
(9) 香料	適量

(製法) 実施例1と同様にして実施例6の粉末含有ゲル
状化粧料を得た。 【0032】

実施例7 粉末含有ゲル状化粧料

(1) デカメチルシクロペンタシロキサン	37.5 重量%
(2) ジメチルポリシロキサン (6CS)	2.0
(3) エタノール	7.5
(4) ポリエーテル変性シリコーン ¹⁾	12.0
(5) ポリエチレン粉末	40.0
(6) イオン交換水	1.0
(7) パラベン	適量
(8) 酸化防止剤	適量
(9) 香料	適量

(製法) 実施例1と同様にして実施例7の粉末含有ゲル
状化粧料を得た。 ※ 【0034】

◎: 15~20名が使用性良好と判定。

○: 10~14名が使用性良好と判定。

△: 5~9名が使用性良好と判定。

×: 0~4名が使用性良好と判定。

【0033】実施例1~7および比較例1~2で得られ
た粉末含有ゲル状化粧料を専門パネル20名により官能
評価したところ、表1のような結果となった。粉末の沈
降、安定性については室温に1ヶ月放置後、外観を観察
した。また、その他の評価は、以下の基準によって判定
した。 ※

【0035】

【表1】

	実施例							比較例	
	1	2	3	4	5	6	7	1	2
塗布時の									
べたつきのなさ	◎	○	◎	○	◎	○	△	×	×
のびの軽さ	○	◎	○	△	○	○	○	×	×
塗布後のさっぱりさ	◎	○	○	○	◎	○	△	×	×
粉末の沈降	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ややアリ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
安定性	ヨイ	ヨイ	ヨイ	ヨイ	ややワルイ	ややワルイ	ヨイ	ヨイ	ヨイ
化粧持ち	◎	○	◎	△	◎	○	○	×	×

【0036】表1より明らかなように、本発明の粉末含
有ゲル状化合物は、塗布時べたつきがなく、のびの軽さ
および塗布後のさっぱりさ、化粧持ちの点で優れたもの★

★であった。比較例1、2においては、べたつくうえに、
粉末のきしみ感も感じられた。化粧持ちも悪かった。

【0037】

実施例8 液状ファンデーション 50

11

12

(1) デカメチルシクロペンタシロキサン	48.0 重量%
(2) ジメチルポリシロキサン (6CS)	2.0
(3) エタノール	8.0
(4) ポリエーテル変性シリコーン ^{*)}	7.0
(5) イオン交換水	2.0
(6) ポリメチルシルセスキオキサン末	15.0
(7) 二酸化チタン	13.0
(8) マイカ	2.0
(9) 酸化鉄	1.0
(10) ポリエチレン末	2.0
(11) パラベン	適量
(12) 酸化防止剤	適量
(13) 香料	適量

(製法) (1), (2)および(11)~(13)を室温で混合溶解した後、ホモミキサーで攪拌しながら(3)および(4)を加えて完全に混合した。その後、ホモミキサーで攪拌を続けながら(5)を添加しゲル化させた。これに(6)~(10)を加*

* え、ホモミキサーで混合分散後、脱気、充填し液状ファンデーションを得た。

【0038】

比較例3 液状ファンデーション

(1) デカメチルシクロペンタシロキサン	50.0 重量%
(2) ジメチルポリシロキサン (6CS)	2.0
(3) エタノール	8.0
(4) ポリエーテル変性シリコーン ^{*)}	7.0
(5) イオン交換水	2.0
(6) 二酸化チタン	15.0
(7) マイカ	13.0
(8) タルク	2.0
(9) 酸化鉄	1.0
(10) パラベン	適量
(11) 酸化防止剤	適量
(12) 香料	適量

(製法) (1), (2)および(10)~(12)を室温で混合溶解した後、ホモミキサーで攪拌しながら(3)および(4)を加えて完全に混合した。その後、ホモミキサーで攪拌を続けながら(5)を添加しゲル化させた。これに(6)~(9)を加 ※

* え、ホモミキサーで混合分散後、脱気、充填し、液状ファンデーションを得た。

【0039】

比較例4 液状ファンデーション

(1) デカメチルシクロペンタシロキサン	48.0 重量%
(2) ジメチルポリシロキサン (6CS)	2.0
(3) エタノール	8.0
(4) ポリエーテル変性シリコーン ^{*)}	7.0
(5) イオン交換水	2.0
(6) 二酸化チタン	15.0
(7) マイカ	13.0
(8) タルク	2.0
(9) 酸化鉄	1.0
(10) ジオクタデシルメチルアンモニウム塩変性 モンモリロナイト	2.0
(11) パラベン	適量
(12) 酸化防止剤	適量
(13) 香料	適量

(製法) 実施例8と同様にして比較例4の液状ファンデ 50 ーションを得た。

【0040】

比較例5 液状ファンデーション

(1) デカメチルシクロペンタシロキサン	48.0 重量%
(2) ジメチルポリシロキサン (6CS)	2.0
(3) エタノール	8.0
(4) ポリエーテル変性シリコーン ¹⁾	7.0
(5) イオン交換水	2.0
(6) ジメチルシリル化無水珪酸	15.0
(7) ジメチルポリシロキサン処理酸化チタン	13.0
(8) パルミチン酸デキストリン処理マイカ	2.0
(9) パルミチン酸デキストリン処理酸化鉄	1.0
(10) パルミチン酸デキストリン処理タルク	2.0
(11) パラベン	適量
(12) 酸化防止剤	適量
(13) 香料	適量

(製法) 実施例8と同様にして比較例5の液状ファンデーションを得た。

* その結果を表2に示す。

【0042】

【0041】 実施例8と比較例3～5で得られた液状ファンデーションを実施例1～7と同様にして評価した。*

【表2】

	実施例	比較例		
	8	3	4	5
塗布時のべたつきのなさ	◎	×	×	○
のびの軽さ	◎	×	△	△
塗布後のさっぱりさ	◎	×	×	○
粉末の沈降	無し	無し	無し	無し
安定性	良い	良い	良い	良い
化粧持ち	◎	×	×	◎

【0043】 表2より明らかなように、本発明の液状ファンデーションは塗布時のべたつきがなく、のびの軽さ

※であった。

および塗布後のさっぱりさ、化粧持ちの点で優れたもの※

【0044】

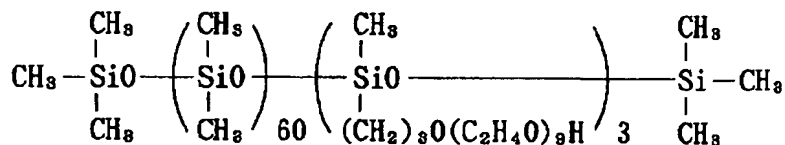
実施例9 サンスクリーンジェル

(1) デカメチルシクロペンタシロキサン	66.0 重量%
(2) ジメチルポリシロキサン (6CS)	2.0
(3) メチルフェニルポリシロキサン	10.0
(4) エタノール	5.0
(5) ポリエーテル変性シリコーン ¹⁾	8.0
(6) ポリエーテル変性シリコーン ²⁾	2.0
(7) イオン交換水	2.0
(8) ポリアミド樹脂粉末	3.0
(9) パラメトキシケイ皮酸 2-エチルヘキシル	2.0
(10) パラベン	適量
(11) 酸化防止剤	適量
(12) 香料	適量

【0045】

【化4】

*2)



【0046】（製法）(1)～(3)および(10)～(12)を室温で混合溶解した後、ホモミキサーで攪拌しながら(4)～(6)および(9)を加えて完全に混合した。その後、ホモミキサーで攪拌を続けながら(7)を添加し、ゲル化させた。これに(8)を加え、ホモミキサーで混合分散後、脱

* 気、充填し、サンスクリーンジェルを得た。得られたサンスクリーンジェルは塗布時のべたつきがなく、のびの軽さ及び塗布後のさっぱりさ、化粧持ちの点で優れたものであった。

【0047】

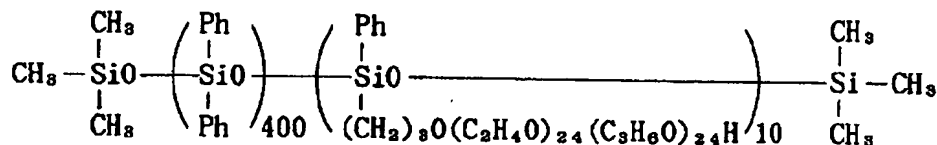
実施例10 モイスチャージェル

(1) デカメチルシクロペンタシロキサン	57.0 重量%
(2) ジメチルポリシロキサン (6CS)	2.0
(3) エタノール	10.0
(4) ポリエーテル変性シリコーン ^{*)}	10.0
(5) イオン交換水	2.0
(6) 1, 3-ブチレングリコール	10.0
(7) ポリエチレングリコール 1500	8.0
(8) セルローズ粉末	1.0
(9) パラベン	適量
(10) 酸化防止剤	適量
(11) 香料	適量

【0048】

【化5】

*3)



Phはフェニル基を示す。

【0049】（製法）(1)～(3), (6), (7)および(9)～(11)を80℃で加熱混合後、室温に戻し、(4)を加えてホモミキサーで攪拌混合した。これに(8)を加えてホモミキサーで完全に分散させた後、ホモミキサーで攪拌しながら、(5)を加えてゲル化させ、脱気、充填し、モイス

* チャージェルを得た。得られたモイスチャージェルは塗布時のべたつきがなく、のびが軽く、かつ塗布後のさっぱりさ、化粧持ちに優れたものであった。

【0050】

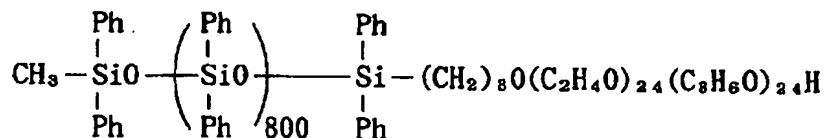
実施例11 乳液

(1) ジメチルポリシロキサン (20CS)	49.0 重量%
(2) ポリエーテル変性シリコーン ^{*)}	3.0
(3) イオン交換水	45.0
(4) ポリスチレン粉末	3.0
(5) パラベン	適量
(6) 酸化防止剤	適量
(7) 香料	適量

【0051】

【化6】

*4)



Phはフェニル基を示す。

【0052】（製法）(1), (2)および(4)～(7)をホモディスペーで攪拌した後、(3)を加えてさらにホモディスペーで攪拌混合して乳液を得た。この乳液は、塗布中お*

* よび塗布後のべたつきもなく、使用性、化粧持ちの良好なものであった。

【0053】

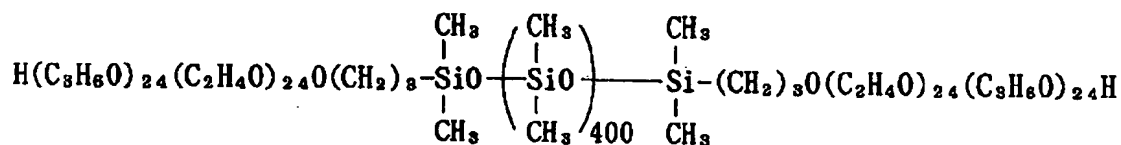
実施例12 クリーム

(1) ジメチルポリシロキサン (6CS)	55.0 重量%
(2) ポリエーテル変性シリコーン ^{a)}	5.0
(3) イオン交換水	30.0
(4) エタノール	5.0
(5) 球状ポリエチレン	5.0
(6) パラベン	適量
(7) 酸化防止剤	適量
(8) 香料	適量

【0054】

【化7】

*5)



【0055】（製法）(1), (2)および(4)～(8)をホモディスペーで攪拌した後、(3)を加えてさらにホモディスペーで攪拌混合してクリームを得た。このクリームは、塗布中および塗布後のべたつきもなく、使用性、化粧持ちの良好なものであった。

※ 【0056】

30 【発明の効果】以上説明したように、本発明のゲル状化粧料は、のびが軽く、塗布時のべたつきがなく、かつ塗布後のさっぱりさおよび化粧持ちに優れたものである。

※